鉢崎関所でトラブルをおこした伊能忠敬

出典：国土地理院ウェブサイト　URL http://kochizu.gsi.go.jp/items/369?from=category,10,index-map（伊能図：越後　長岡　椎谷）をもとに作成

　伊能忠敬の測量隊が「幕府御用」の旗をかかげ、鉢崎関所にさしかかったのは夕暮れでありました。すでに５８歳の忠敬は、その日の早朝から北国街道の難所米山三里の山坂峠の測量をしてきたので、とてもつかれていました。

　当時、鉢崎関所は、佐渡金山からの金塊を江戸へ運ぶ中継基地として、とても重要な場所でした。忠敬たちが、かぶり物も取らず、手形も見せずに、関所の木戸を通り抜けようとしたので、番所の役人たちは、あわてて忠敬一行の前に立ちはだかり、測量隊の器具類を調べ始めました。

　忠敬は、すごく怒って「お前たちは、幕府御用の旗が目に入らぬのか。幕府の命令によって測量をしているのに挨拶もせず、番所役人のくせに羽織、袴もつけない無礼はどうしたことだ。それに我々の命とも頼む測量器具に無断で調べるとは何事か」と大きな声で役人に詰め寄りました。

　藩から何の連絡もなかった関所役人にしてみれば、忠敬らのルールを無視した行動は、許せないものであったと思われます。しかし、関所役人が一応折れて、一件落着となりました。